



僕たちはこう考える 変わる図書館！



図書館のイメージとは、どのようなものでしょうか。単に本の貸出しを行っている場所と考えている人も多いと思います。

私たちは、市内にある6つの市立図書館を訪ねて、現実とイメージとの違いに気づかされました。ビジネス書や郷土資料など、各館ごとにその地域性に合わせた本を収集していたり、おはなし会や影絵の会などのイベントを開催していたりします。

こうした図書館の魅力を知ってもらい、よりにぎわいのある図書館にしようと、次の提案をします。

本を楽しむ、知のバトルの場

本を読む楽しさを多くの人たちに知ってもらうため「ビブリオバトル」というイベントを市内の6図書館で開催します。

これは、関西の大学生が考案した、ゲーム感覚を取入れた新しいスタイルの書評合戦です。ルールは簡単で、出場者が好きな本を選び、みんなの前で紹介。その中からどの本が一番読みたくなったかを競うというものです。

私たちは独自のやり方として、大学生の部、高校生の部、中学生の部、小学生の部を設けます。そして、人生経験豊かな高齢者の方に審査員となってもらう、内容を評価してもらいます。

今は、大学生の大会が主流ですが、それを各世代に広げます。6つの図書館対抗の、知のバトルを展開してはどうですか。

静かな図書館から、笑顔が生まれる図書館へ

図書館というと、みんな静かに本を読んでいるので、足音一つ立てるのにも気を使います。そこで私たちは、交流が生まれ、にぎわいのある図書館があってもよいのではと考えました。「つながり」というキーワードをもとに、図書館の新しいスタイルを提案します。

例えば、高校生や大学生がボランティアとなって、授業を終えた小学生や幼稚園児を対象にした読み聞かせや演劇などを行います。これまであまり見られなかった若者と子どもたちとの交流が広がります。子どもたちの笑い声が響く、図書館にしてみてもいいかがですか。

